

第三章

研究方法

A. 研究方法の定義

ビッグインドネシア語辞典（ホール出版、1989）の方法では組織として定義し、目的を達成するためによく考えられている。研究では、徹底的な検査や調査であるが。したがって、研究方法は、検査または調査を行うためによく組織的な方法である。もちろん、それが研究に基づき、適切な方法を必要とする研究がうまくいっている。

研究方法、研究の目的を理解するために研究を行うに実施される作業の体系的な方法であると述べている：これは、意見及びダに準拠している。

本研究では、ライターが記述法を使用している。

「記述方法はいくつかの可能性を収集することにより、実際の問題を解決しようとする方法であり、既存のデータを解釈し、分類する」

(Surakhmad, 1985 : 147)

記述的な研究は、データの収集とコンパイルに限定されるものではなく現在に存在する問題を解決するに焦点を当てるが、データの意味の分析と解釈を含んでいる。記述法は、今日何が起こったのか

を解釈するための努力、記録分析の説明がなっている瞬間に何が起きているかを記述することを目的と手法であることを説明している。Sutedi (2005 : 24) は中にも実際の問題を解決するために科学的な手順を使用して、この時に発生する現象を記述し、記述するために実施した記述的な調査研究によって何を意味していることを説明する。

記述方法は、することによって問題を解決するためにいくつかの可能性について議論した。

1. データの収集、
2. 分類するために設定され、
3. 分析し、
4. 提出する。

それは記述的な分析メソッドを介して著者は、さまざまなソースからデータを収集することができますされているため、記述的な分析方法は、著者は本研究の方法として非常に適切な発見した。また、このメソッドは、ケースを分析するための適切な方法であり、体系的な概要を取得する方法である。また、データの提供に、著者らはまた方法を考えてみましょう。メソッドは、言語の使用 (Mahsun, 2005 : 92) を聞くことによってデータを取得するために使用される手段であることを検討してください。ここでリスニングという用語

は、口頭言語の使用だけでなく、書面での言語の使用に関連しているだけではない。

B. 研究のデータ源

本研究で用いた用具は、データ形式と文学の研究を実施することである。データ形式の転写に記載技法を使用して発行された文章の例の形式の質的データの形式の研究データ・ソースの中に。終助詞「よ」と「ね」を含むデータ・文章の撮影：

1. 日本が発行する漫画、特に高橋留美子の作品めぞんめぞん一刻1版である。
2. 日本の主題に関する本：基本的な日本語の使用、および他の辞書などである。
3. 日本のテレビ番組。

一方、データファティック助詞を持っているインドネシアの文章は前にそこにあった日本語文の例の翻訳から取得される。

C. データ収集技法

前述したように、著者らは、研究データを提供する方法として、方法を検討する。このメソッドは、テクニックをタップの基本的な技術の形をしている。本質的に懲戒方法はタップすることで実現を

参照してくださいので、このメソッドの基本的なテクニックと呼ばれる技術をタップする。ある意味では、努力の研究は、言語盗聴者または情報提供者になった人は、口頭又は書面で (Mahsun, 2005 : 92) の使用に関するデータを取得する。

その後の練習では、タッピングの技術は、言語使用のいくつかの形態が研究に関連していることに注意し、使用されるテクニック著者らは注意してそのうちの 1 つはより高度なテクニックが続いている。著者は、フォームが口頭言語であっても、文献データから得られたデータのほとんどは指摘手法を使用している。

日本のテレビドラマから来る文章のいくつかの比較例では、著者は単にテクニックを記録していないが、また、技術関係する会話を無料でご利用を参照しなければならない。関与して参照することが自由に修飾されたエンジニアリングは、研究者が唯一の彼らの情報提供者による言語使用のオブザーバーとして作用する技術である。研究者は、直接的に言語が研究された場合に置換を見なかった。

Sudaryanto (1993) によれば、研究活動の言語は、プロセスの 2 段階に分かれている。最初の段階では、検索の問題または検出フェーズの段階であると第二の問題は、ステージを解決する問題である。

本研究で著者らは、以下の 3 つのフェーズを実施した。

1. 準備フェーズ

この時点で著者は、研究に関連集まったデータで開始する。データは、以前に日本語とインドネシア語で決定された情報源から収集される。対話と日本語の「よ」と「ね」と同様に、インドネシア語のファティック助詞の対話を使用してその文の後に、意味や機能に応じて分類されている。

2. 実装フェーズ

一度データが日本語とインドネシア語でファティック助詞の「よ」と「ね」の使用を分析し、続いされ、収集される。意味や機能を使用する方法について説明する。ステージに行くその後、対等は、翻訳で文章の例を提示することによって、両方を分析した。

3. 報告フェーズ

この段階では、インドネシアでファティック助詞と日本語で「よ」と「ね」の対等についての結論の形で研究成果を報告の段階である。それは B1 システムは B2 とその逆に完全に適用することはできなく、含まれていることが発見される。この研究の結果から、うまくいけばインドネシア語に「よ」と「ね」ファティック助詞を変換するときにエラーを減らすことで日本語学習に貢献している。